



「タバコ」がお薬の効きめに 影響することがあるのですか？



はい、あります。

喫煙によってお薬の効きめが悪くなってしまうことがあるのです。

【 なぜお薬の効きめが悪くなるのでしょうか？ 】

喫煙によりからだの中へ吸収されたタバコの成分は、お薬を分解(代謝)する一部の酵素の量を増やします。そのためお薬はどんどん分解され、効きめが悪くなってしまいます。

【 喫煙で効きめが悪くなるお薬 】

(例)

- ・テオドール(テオフィリン:喘息のお薬)
- ・セルシン(ジアゼパム:気分を落ち着かせる薬)
- ・インデラル(プロプラノロール:狭心症、高血圧のお薬)など

タバコを吸うようになったり、禁煙したときには、
医師・薬剤師に必ず伝えてお薬をチェックしてもらいましょう。

お薬を正しく使うのは患者さん自身です。
お薬についてご質問のある方は、お気軽にお尋ねください。

